

令和 6 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立住吉幼稚園

令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

『安全・安心な教育の推進』の取組では、園内の異年齢の交流を重点的に考えながら、小学校や保育所、地域との交流など、保育の内容を検討して進めていきたい。周りの人との関わりにおいては、幼児の実態把握をし、どのような教師の働きかけが効果的なのかを意見交換しながら、課題を元に、年間計画を立て、実態に合わせて取り組んでいきたい。道徳心・社会性の育成の取組では、集団生活を送る中で、遊びの中で自分の思いを出したり、ルールやきまりを話し合ったりするなど、年齢に合わせて、様々な場面で指導方法を工夫しながら、子どもが主体的に活動できるように、取り組んでいきたい。安全面では、視覚教材や実演など、子どもへの分かりやすい安全指導の方法を検討し、保護者への啓発も含めて取り組みたい。『未来を切り拓く学力・体力の向上』の取組では、予測困難な社会状況の中でも、たくましく生き抜く幼児を育てることが求められるため、保護者と連携を図りながら、健康的な生活習慣を身につけたり、体を動かして遊ぶ楽しさを感じたりできるように指導方法を考えたい。また、園の特色である自然環境や教育環境について、遊びの中での幼児の実態把握に努め、環境を見直したり、指導方法を工夫したりしてしていきたい。『学びを支える教育環境の充実』の取組においては、園芸活動で、保護者に伝達、教職員で遊びの中での幼児の学びの姿を捉え、幼稚園教育要領の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に着目しながら、保護者や地域への情報発信にも努めていきたい。また、指導計画の見直し、保育内容が充実するように取り組んでいきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るための行動力を身につけることができますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケート調査で「自分の健康に関心を持ち、基本的な生活習慣を身につけていると思えますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めたりしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「幼稚園は、避難訓練、保育の中や保護者、区役所等による安全指導、保健指導などにより、生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るための行動力を身につけるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「幼稚園は、集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごせるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「幼稚園は、異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育つように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「幼稚園は、考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じられるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「幼稚園は、遊びの環境づくりや栽培活動に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「幼稚園は、保健指導やほけんだよりなどにより、自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 令和6年度末の長時間勤務時間において、教員の累計平均時間数を令和5年度より減らす。
- 保護者アンケート調査で「幼稚園は、幼稚園だよりやほけんだより、クラス・園長室だより、HP・貼り出しなどにより、情報発信に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

安全指導や異年齢交流、保健指導においては、年度当初に年間計画を立案し、年間を通して計画的に指導を進めてきた。また、子どもたちの日々の興味や関心、実態に応じた必要なことを踏まえて、教職員で話し合いをしながら進めた。安全指導や保健指導の内容は子どもたちだけでなく、保護者への啓発も進めてきたことで、子ども自身が守ろうとする意識をもてるようになってきているとともに、保護者とも連携をすることができてきている。異年齢交流は継続して行うことで、いろいろな人との関わりを楽しんだり、親しみを感じたりして、幼稚園で安心して過ごすことにつながっている。

教育課程や教育環境の見直しを行っていくことで、保育の充実に努めた。園の環境を生かした取組を行い、子どもたちが身近な環境に主体的に関わろうとする姿が見られるようになった。

保護者や地域への保育の発信や働き方改革に関しては工夫して行ってきたが、次年度以降も継続して行っていくことが必要である。

大阪市立住吉幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート調査で「幼稚園は、避難訓練、保育の中や保護者、区役所等による安全指導、保健指導などにより、生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るための行動力を身につけるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。 ○保護者アンケート調査で「幼稚園は、集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごせるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。 ○保護者アンケート調査で「幼稚園は、異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育つように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 安全な生活が送れるように、学校安全計画に基づき、年間計画(別紙1)を立て、安全指導や避難訓練を実施し、啓発を図る。 ----- 指標 安全指導や避難訓練を実施し、幼児、保護者に啓発する。	A
取組内容②【2 豊かな心の育成】 異年齢や周りの人との交流を年間で継続して行い、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、思いやりの気持ちをもって互いを認め合い、安心して過ごせるような保育に取り組む。 ----- 指標 異年齢交流の年間計画(別紙2)を作成し、集会や交流の計画を定期的に話し合いながら、幼児の実態に合わせて、見直しながら実施する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標について】 ○年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、避難訓練、保育の中や保護者、区役所等による安全指導、保健指導などにより、生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るための行動力を身につけるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%(思う77%、概ね思う23%)であった。 ○年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごせるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が95%(思う70%、概ね思う25%)であった。 ○年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育つように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%(思う77%、概ね思う23%)であった。	

【取組内容について】

- ① 学校安全計画に基づいて、毎月避難訓練を実施した。保育室やプールなど、様々な保育の場面を想定した訓練となるよう、事前に教職員で話し合っただけで訓練を行った。1月には、阪神淡路大震災をもとにつくられた絵本『地震がおきたら』を訓練直後に読み聞かせを行い、地震の怖さや地震発生後にどのようなことが起こるのかなど知らせ、改めて緊急時の身の守り方について考える機会を設けたことで、地震についての実態を知り、子どもがより意識して自分の身を守るということに対して考えることができた。また、避難経路を確保するために、西門・裏庭の整備や廊下の整理整頓を行った。環境整備を行ったことで、教職員の安全意識が高まり、子どもたちの安全指導につながっている。安全指導については、年間計画を立て、指導を行った。子どもたちが想像しやすく、自分ごととして捉えやすくなるように、教職員による寸劇を用いた指導を行った。安全指導の内容は、子どもたちの安全に関する課題を教職員で話し合い、園の実態・実情に合わせて、テーマを設定した。(別紙1)

〈5月〉持ち物に関するルールとして、危険なものはつけないことや幼稚園での遊びのルールについて

〈6月〉プールでの安全な遊び方について

〈7月〉夏休みの安全な過ごし方について

〈8月〉登園時や園庭開放中の約束について

〈10・11月〉園外での交通ルールや集団行動の約束について

〈12月・1月〉服装について

〈通年〉子どもたちに対する安全指導とともに、降園連絡や始業式、終業式などで保護者への啓発も行った。

安全指導により、自主的に安全に気を付ける子どもが増えた。また、保護者も意識して、子どもを見てくださるようになった。

- ② 様々な異年齢交流を通して、思いやりの気持ちをもって互いを認め合い、安心して過ごせるように取り組んだことで、いろいろな友達との交流を楽しみ、親しみや憧れなどの気持ちをもった。

〈1学期〉5歳児が3歳児の身支度の手伝いをしたり、集会活動や普段の園庭での遊びの中で、年長児として思いやりをもって接したり、見本を見せたりする姿があった。ふれあいを通して、3歳児や4歳児は憧れをもち、安心して遊ぶことにつながった。水遊びや泥水遊びの際には、全学年で一緒に遊びながら、色水づくりや水鉄砲、しゃぼん玉、スーパーボールすくいなどをして遊んだりした。また、砂を掘ったり水を汲んだりして池や山をつくる、一緒に考えたり試したりしながら樋に水を流すなどの遊びを何度も行い、楽しむ様子があった。異年齢交流があったことにより、人との関わりが増え、「○○さんと遊びたい」「○○さんみたいに頑張りたい」という意欲につながり、憧れの気持ちをもつ姿につながった。

〈2学期〉運動会への取組の中で、全園児と一緒に体操やダンスをしたり、仲良し遊びを知らせ合ったりして、異年齢交流を進めた。運動会後は、他の学年の遊びを見合っていたことから興味をもち、園庭で他学年のダンスや演目を楽しむ姿が見られ、その中でダンスを教え合ったり、いろいろな学年が入り混じってリレーをしたりする姿があった。

〈3学期〉園庭での遊びが同じ時間に重なった際に、一緒に体操やマラソンをしたり、

5歳児が遊んでいた竹馬や縄跳び、登り棒などに3、4歳児が混じって挑戦していたりしながら関わって遊ぶ姿が見られた。

〈誕生会〉1年間を通して、ふれあい遊びを取り入れてきた。クラスで取り組んでいる遊びを他のクラスに発信していくことで「見てほしい」という気持ちが満たされたり、年間を通して行うことでいろいろな友達との関わりを楽しんでいた様子が見られた。週案作成時に、交流の機会がもてるように交流を取り入れたことで、いろいろな方や友達とふれあう安心感をもち、人と関わる楽しさの経験をすることができ、思いやりの気持ちをもって互いを認め合い、安心して過ごす姿が多く見られた。

次年度への改善点

- ① 今後も1回の安全指導の実施のみで終わらすことのないように、日々の保育の中で継続的な言葉かけや指導を行い、身に付くようにしていきたい。園庭開放中に保護者同士での会話に夢中になり、子どもを見ていない姿がまだ見られるため、継続した注意喚起を行う。
- ② 年間計画に基づいて、週案作成時に集会の体操や遊びを決めたり、保育後に遊びや進め方を決めたりして、計画的に保育を進めていきたい。

大阪市立住吉幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート調査で「幼稚園は、考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じられるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。 ○保護者アンケート調査で「幼稚園は、遊びの環境づくりや栽培活動に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。 ○保護者アンケート調査で「幼稚園は、保健指導やほけんだよりなどにより、自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し、多様な経験ができるように、教育課程の見直しを行う。 ----- 指標 ・日々の指導計画から年間の教育課程の見直しを行う。	A
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 身近な環境に主体的に関わり、自ら体を動かす楽しさを味わって遊んだり表現したりできるように身近な環境の見直しを行う。 ----- 指標 ・遊びの環境の見直しを行い、環境構成の工夫に取り組む。 ・年間3回以上の園内研修を行う。	A
取組内容③【5 健やかな体の育成】 基本的な生活習慣が身につくように、保健指導や指導後の継続した取組を行う。 ----- 指標 ・実態に合わせた保健指導に取り組む。(別紙3) ・保健指導後、担任と養護教諭が継続した指導を行い、基本的な生活習慣が身につくようにする。 ・保健だよりや健康カレンダー、掲示等を活用し、保護者の啓発に努める。	A
取組内容④【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 園庭の自然環境を生かし、栽培活動に取り組む。 ----- 指標 ・親子栽培の活動に取り組み、保護者の参加の方法を工夫する。 ・季節ごとの栽培活動を、計画的に行う。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標について】 ○年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じられるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%(思う75%、概ね思う25%)であった。	

○年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、遊びの環境づくりや栽培活動に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が96%（思う78%、概ね思う18%）であった。

○年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、保健指導やほけんだよりなどにより、自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけるように努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が100%（思う83%、概ね思う17%）であった。

【取組内容について】

- ① 週案作成時には、子どもの姿を共有し、就学前教育カリキュラムや大阪市立幼稚園教育研究会参考教育課程「世界を拓くなにわっ子」を参考にして遊びの内容を検討したり、環境準備を全教職員で一緒に行ったりした。

6月には、保育計画を立てる上で、全園児が一緒に同じ場で遊ぶ時間をもち、保育後に反省点をあげ、環境を再構成することを繰り返し行った。主に泥水遊びや色水遊び、スーパーボールすくい、水鉄砲、ダンス、サーキット遊びなど自分で好きな遊びを選んで楽しめるように、いくつかの場を用意した。先を見通した計画を立てたことで、子どもが遊びを継続して発展させることができ、体を動かして遊ぶ姿が見られた。また、教職員みんなで環境を整え、交代しながら子どもの姿を見守ったことで、異年齢での交流が増え、砂場では5歳児がつなげた樋に、3歳児や4歳児が興味をもち、水を運んできて流したり、色水遊びの場では、色水のつくり方を5歳児が年下の友達に教えたり、5歳児がつくる姿を見てまねをしてつくったりする様子につながった。

10月には、運動会で使った遊具や音楽を、園庭に準備したことで、他のクラスの遊びに興味をもち憧れの気持ちをもって遊んでいる姿が見られた。リレーやダンス、玉入れなどを通して異年齢の子どもが交流して遊ぶようになった。

11月からは話の世界の中で、表現遊びを楽しんだり、必要なものをつくって遊んだりすることができるように、話のイメージに合う環境を設定した。

3学期は寒い中でも体を動かしてほしいと思い、遊ぶ前にマラソンや体操を取り入れ、体を温めてから遊ぶようにした。親しみのある音楽をかけると、クラス関係なく子どもが集まり、一緒に走って自然と交流して遊ぶ姿が見られた。保育後には、遊びの様子を教師間で共有し合い、環境構成や週案の作成につなげ、保育の充実につながった。

- ② 1学期と3学期には、園内研修支援、2学期には指導要請での研究保育を行い、資質向上に努めた。

1学期は、子どもたちの実態を捉え、体を動かして遊びたくなる環境を整え、2学期は、1学期の子どもたちの様子から、興味があるものを取り上げ、共通のイメージを広げながら、体を動かして遊べるような環境を整えた。3学期は、寒い中でも体を動かして遊べるように、音楽や縄跳びなど、子どもが興味のあるものを園庭に用意して環境を整えた。

〈5歳児〉保育室の中にいろいろな大きさの箱を用意し、箱積み遊びを行った。普段は絵をかいたりブロック遊びをしたりして落ち着いて遊ぶことが多かった子どもが、箱に興味をもち、高くまで積み上げようと踏み台を使ったり、友達と積み方を考えたりして体を動かして夢中になって遊ぶ姿が見られた。2学期に入り、保育室に太鼓やペットボトル、祭りのイメージが広がるような音楽を用意し、音を鳴らしたり踊ったりして遊ぶ姿が見られた。その中で、自分たちの考えた踊りや太鼓の鳴らし方、祭りのイメージを子どもたち同士で伝え合い、体を動かしながら、自分たちで考えたり試したりして友達

と一緒に作る楽しさを感じながら遊ぶようになった。2学期の後半からは「ピーターパン」の世界で遊べるように、保育室に大型積み木を運んで、海賊船をつくったことで、剣や羽など好きな役に合った道具を自分たちでつくり、それを使って全身を使った表現遊びや劇遊びが広がった。

〈4歳児〉段ボールを準備して子どもたちがつくりたいものを一緒につくった。体が入るくらいの輪を段ボールでつくり、それをいくつかつなげて電車にしたり、段ボールに恐竜の絵をかいたものと新聞紙を丸めたボールをつくったりした。電車を連結させて遊んだり、恐竜にボールを入れて遊んだりした。自分のイメージを広げて段ボールやその他の素材を使ってつくり、そこから遊びに広げて体を動かす姿があった。2学期に入り、園全体で体操やダンスをする時間を多くもった。クラスでは虫になって、うんどうかいごっこをして遊ぶ中で、綱引きや玉入れをしたり、段ボールを使ったキャタピラーやボール運びなど1学期から親しんできた素材を使っての遊びを楽しんだりした。運動会のお土産でもらった縄を使って、いろいろな遊びを考えて実践している。自分のものや自分たちでつくったもので遊ぶことで、より心と体を動かして遊ぶことにつながっている。3学期は、マラソンや縄跳び、一輪車、竹馬などいろいろな運動遊びに挑戦できるようクラスで取り組んだり、継続して遊べるようにしたりしてきた。5歳児への憧れや挑戦する気持ちを持ち、継続して取り組もうとする姿が見られる。

〈3歳児〉1学期、ラバーフープやジョイントボックス、ミニ三角コーンなど保育室内でも使い、3歳児の子どもでも扱える大きさの運動遊具を準備し、サーキット遊びを楽しめるよう環境を整えた。毎日いろいろなコースにつくり替えることができるので、子どもたちは継続して遊ぶことを楽しんだり、自分で動かして工夫し遊んだりする姿が見られた。子どもたちの遊ぶ様子に合わせ、出す道具の種類を考慮し、子どもたちが楽しそう、したいと心を動かしたことで、自ら体も動かすことにつながっていった。2学期は、1学期に親しんできた運動遊具を使って遊んだり、新しく積み木やマットなども取り入れたりした。遊具も大きくなり、今までとは違う動きもできることで、より楽しみ、体を動かして遊ぶことに楽しさを感じていた。3学期は、寒い中でも体を温めて遊ぶ楽しさを感じられるように、マラソンを取り入れた。回を重ねるごとに、体が温まることを実感し、「マラソンの音楽かけて」と自ら走ることに意欲をもっている子どもの姿も見られた。

- ③ 昨年度の保健指導や子どもたちの様子を参考にしながら、今年度の学校保健計画に基づいた保健指導の計画を立案した。日々の保育の中での子どもたちの様子や健康課題をもとに、計画を改善しながら毎月の保健指導のテーマを設定した。保健指導で知らせたキーワード（ふわふわ言葉やくじら列車、ケロケロの術など）は子どもたちの印象に残っているようで、保健指導から時間が経っても、キーワードを用いて継続的に言葉かけをすることで思い出して正しい健康行動に変える様子が見られた。保健指導の後には、トイレ横の掲示板に教材の掲示を行った。掲示した教材は、子どもたちが触ったり、遊んだりしながら興味をもてるような教材を作成し、継続的な指導を行った。子どもたちはトイレや手洗いの前後に掲示を見たり、触ったりして指導内容を思い出していた。保健指導後の1週間には、けんこうカレンダーを配布した。保健指導の内容を保護者にも知らせるために、けんこうカレンダーに保健指導で知らせた内容や内容に関するクイズを記載して、家庭で保護者と子どもたちが一緒に取り組むことのできる内容にして家庭啓発を行った。けんこうカレンダー以外にも、時々「くじらカード」や「てあらいカード」などを配布し、子どもたちが飽きないように工夫をした。保健指導の後には、保健指導の内容を降園連絡や園のホームページで知らせ、月末には、ほけんだよりには保健指導の内容を記載して情報発信を行った。ほけんだよりには、子どもたちの反応や保健指導の

時の様子が分かるように、写真を多く取り入れ、分かりやすい文章になるように工夫した。学期末の保健活動に関するアンケートでは、「こんなお話だったよとよく教えてください」「こうするって先生言ってたよと教えてくれるようになりました」、けんこうカレンダーの保護者からのコメントでは、「家族でふわふわ言葉について話し合いました」などがあり、保健指導の内容を親子で話し合ったり、家庭で取り組んだりしている様子が見られた。(別紙3参照)

- ④ 〈親子栽培〉今年度は、去年の反省を踏まえて、植木鉢を中心に夏野菜を栽培した。3、4歳児は部屋に近い場所に置いたことで、降園時に親子で生長の様子を見たり水やりをしたりする姿が多く見られた。植木鉢に植えたことで、自分の苗が分かりやすくなり、4、5歳児は進んで水やりをしていた。収穫も親子で楽しんでする姿が多く見られた。〈その他〉季節に合った野菜を植え収穫できた。春はスナッペンエンドウ、インゲン、そら豆、ジャガイモ、玉ねぎ、夏はキュウリ、ゴーヤ、ナス、オクラ、トマトなど収穫し、その都度持って帰ることができた。5歳児は収穫した野菜の大きさや数などに興味をもっていた。その他にもトウモロコシやスイカなど、実の付き方を観察することができた。畑では5歳児がサツマイモを植え、水やりや雑草抜きし、秋には収穫をした。今年度は畝をしっかりと作ったことで、たくさんのサツマイモができ、一人一個ずつ持ち帰ることができた。イモのツルでも存分に遊ぶことができリースづくりもできた。サツマイモ収穫後は、ブロッコリーやそら豆を植え、育てている。年中長児は気が付いたときにみんな雑草抜きなどし、生長を楽しみにしている。花も地域の方が育てた花をいただき、花の名前や植え方を教えていただいた。色水遊びにも使うことができた。今年度は冬野菜をやめて、チューリップを個人で植えた。今後は家に持ち帰り生長を楽しんでいきたい。
- 〈田植え〉住吉大社の田植えを見学させていただいた後に、苗をもらった。5歳児がトロ箱に土と水を入れしっかり踏み込んだことで、田植えに適した土をつくることができた。自分たちで苗を植えたことで、生長に興味をもち観察している。稲もしっかり生長し実もついていた。網をしていたが、鳥たちに実を食べられてしまい、残念だった。

次年度の改善点

- ① 今後も参考資料を用いて、教職員同士の話し合いのもと、子どもの実態や発達、園内環境に合わせた保育計画や指導計画を検討していきたい。
- ② 遊びの環境の見直しは、今後も教職員間で共有しながら進めていく。教材研究をしながら、子どもたちが自ら体を動かして遊んだりできるように、実態に合わせた保育を計画し、実施していきたい。
- ③ 保健活動に関するアンケートで、性教育に関する指導を希望する保護者が多く見られた。教員間で話し合っ、保護者の理解を得ながら、子どもたちの実態に合わせて、慎重に指導時期や指導内容を検討していきたい。また、清潔保持の面(爪、耳垢、むし歯など)で課題が見られるものの、保護者に啓発を行っても変化が見られない家庭には、園児に対する個別の保健指導を実施していきたい。
- ④ 土に肥料が足りなかったことで全体的に生長が悪かった。植えた後も定期的に肥料を上げる回数が少なかったことで、苗が細かった。土づくりを勉強する必要がある。全体的に取り組む時期が遅くなったので、計画的にできるよう、教師間で連携をとっていきたい。

大阪市立住吉幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○令和6年度末の長時間勤務時間において、教員の累計平均時間数を令和5年度より減らす。 ○保護者アンケート調査で「幼稚園は、幼稚園だよりやほけんだより、クラス・園長室だより、HP・貼り出しなどにより、情報発信に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 保育の打ち合わせを効率よく実施し、働き方改革を進める。 指標 職員会議や共通理解を効率よく行い、長時間勤務を昨年度より減らし、働き方改革に努める。	A
取組内容②【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 保育の充実とともに、保育内容の情報発信に努める。 指標 保育内容について、幼稚園だよりやほけんだより、クラス・園長室だより、HP・貼り出しなど、情報発信に努める。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標について】 ○令和6年度の長時間勤務時間において、教員の累計平均時間数を令和5年度より、1時間程度減少している。 ○年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、幼稚園だよりやほけんだより、クラス・園長室だより、HP・貼り出しなどにより、情報発信に努めていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が98%（思う77%、概ね思う21%）であった。
【取組内容について】 ① 保育の打合せ日を職員会議の中で事前に決めておき週案に記載し、事前準備ができるようにしておいたことで、係が事前に準備をしておくことができた。打ち合わせを効率よく行えるよう、内容を職員会議等で事前に周知できるところは周知し、時間の短縮化を図った。計画案等をできるだけ詳細につくり、見て分かるようにしておくとともに、打合せを効率よく実施し、働き方改革を進められるよう努めた。研修等で教職員で揃う日が少ないが、揃っている日に段取り良く全体の仕事が進められるよう事前に知らせたことで、少しではあるが、時間数は減っている。ただし、今年度は100周年記念事業もあり、大幅に減ることは難しかった。
② 保育内容の情報発信は、HPを活用し、毎日の更新をしている。預かり保育を利用して保護者から、「HPで見ました」と幼稚園での様子が分かるという声を聞いたり、

新入園児や未就園児の保護者から「HPを見て楽しそうだなと思いました」と聞いたりした。今年度から、月末に「クラスだより」を配布してきた。各クラスの実態とともに、ねらいや教師の意図をもった保育が保護者にも伝わるよう、工夫して作成してきた。日々の降園連絡時に保育の様子を伝えているが、その内容とともに「クラスだより」でも子どもの姿と教師の意図や願いが伝わりやすくなっている様子で、「クラスだよりで見ました」と保護者からの話を聞いた。また、「幼稚園だより」「ほけんだより」とともに配布している「園長室だより」では、地域との関りを中心に取り上げたことで、地域の幼稚園としての取り組みを知らせることができた。また、幼稚園教育要領の10の姿や就学前教育カリキュラムの知・徳・体と関連し知らせることで、幼稚園教育を系統的に知らせるように努めた。

次年度への改善点

- ① 職員会議案や計画案作成時は、事前の打ち合わせをした上で、作成配布する。2学期は反省会がこまめにできるよう、職員会議や週案作成の計画の中に組み込んでいき、保育の充実や効率化につなげていきたい。また、研修等で教職員が揃わない日が多いので、段取り良く全体の仕事が進められるよう、事前計画を立て、効率化を図りたい。
- ② 貼り出しによる情報発信はできていないので、定期的に行えるようにしていきたい。保育内容が伝わるよう工夫した情報発信の仕方や自分の保育を自分の言葉で発信できるように伝える工夫に努めていきたい。